

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般 - 33

学校名・団体名	金沢市立夕日寺小学校
HPアドレス	http://cms.kanazawa-city.ed.jp/yuuhidera-e/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	思考力・活用力を高める革新的な国語科学習指導を探る
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>◎児童の思考力・活用力の育成・学力の向上、教師の指導力・授業力の育成をはかる。</p> <p>○【児童の思考力・活用力の育成】つきたい力を意図した課題について思考力を働かせ、単元を貫く言語活動（成果物）によって活用力が高まる。また、授業の課題を家庭学習で追求し、まとめることによって思考力・活用力がさらに高まる。</p> <p>○【児童の学力の向上】学習の土台となる「読む」「書く」の学習に日常的に取り組む。また、朝学習や補充学習により、読解力向上問題や記述力向上問題、活用力を問う文章問題によって学力を向上させる。</p> <p>○【教師の指導力・授業力の育成】問題解決的な課題設定や、伝え合う交流場面の設定、深める学習場面の設定、終末（まとめ）場面の設定の授業構成の工夫によって指導力・授業力が高まる。</p>	

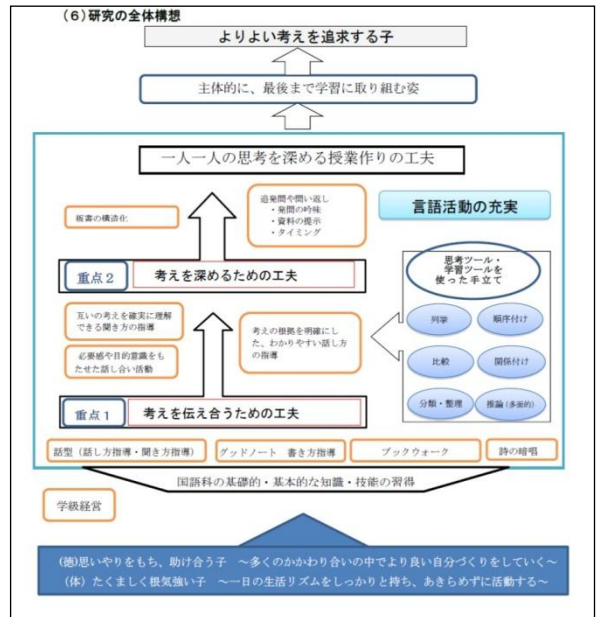
1. 活動内容

児童の思考力・活用力の育成・学力の向上、教師の指導力・授業力の育成のため以下の項目に取り組んだ。

(1) 国語科授業研究の実施 (5月、6月、7月、9月、10月公開研究発表会、11月)

【研究の全体構想図】

研究テーマを『よりよい考えを追求する子』の育成～一人ひとりの思考を深める授業づくりの工夫～に設定し、年4回の全体研究会では、研究主任の提案授業と低・中・高学年からの授業研究を、また、分科研でも授業研究会を全ての教師が外部講師を招聘して研修を行った。1時間の授業を「1)つかむ＝問題解決的な課題設定 2)考える＝伝え合う交流場面の設定・深める学習場面の設定 3)まとめる＝終末(まとめ)場面の設定」という3段階の学習展開で指導力・授業力を高めようとした。



重点として、「考える」学習場面で、考えを伝え合うための工夫(重点①)と考えを深めるための工夫(重点②)の2つを設定し、児童の思考力・活用力が育つ授業づくりに創意工夫を行った。なかでも、その単元で「つきたい力(ゴールの姿)」を明確にし、ゴールに迫るための言語活動を単元計画に位置づけ、単元を通して「ついた力」を“GET(ゲット)”と呼び、GETをめざした授業づくりを夕日寺小の授業づくりとして志向した。



提案授業では、「たんぼぼのちえ」(光村図書二上)を教材に、「たんぼぼ博士になって『へェ～!たんぼぼのちえニュース』を一年生に伝えよう」という単元計画を組んだ。まず、言語活動として「へェ～!たんぼぼのちえニュース」を書くことを意欲づけするため教師作成の成果物例をもとにゴールの姿をイメージさせた。「つきたい力」を大事な言葉や文を書き抜き、経験と結び付けて自分の思いや考えを表現する力とした。GETとして、①順序や様子を表す言葉(「いつ」「何が」「どうなった」と理由を表す言葉(「～ので」「～から」)を見つける力=大事な言葉や分を書き抜く力と②経験と比べながら、初めて知ったことや不思議なことをまとめる力=経験と結び付けて自分の思いや考えを公表する力を考えた。このように、学習計画段階で、明確な「つきたい力」や「つけるべき力」を意識することで、思考力・活用力を育成する授業づくりを行っていった。

【提示の成果物例】

授業展開では、重点①の工夫として、話型の活用による話し方、聞き方指導とともに、必要感や目的意識を持たせたペアやグループ学習による主体的・協働的な学習活動を行い、重点②では、追発問や問い返しによって、それまで気づかなかった事柄を、叙述や表現に戻り、言葉の意味を掘り下げたり、板書の構造化によって比較したり関係づけたり総合的な判断をさせたりすることによって、新たな気づきを促し、深い学びにつなげた。このように、確実に児童の思考力・活用力を高める国語科学習指導を構想した。



【10月21日公開研究発表会 3年2組、2年1組の様子】

そして、それ以降の授業研究や10月21日の公開研究発表会を通して、つきたい力を“GET(ゲット)”していく授業実践を行った。

(2) 児童の思考力・活用力育成にかかわる取組

① 思考ツール及びコミュニケーションツール(話型活用)の取組

考えを伝えたり、深めたりできるように、学年に系統性のある思考ツールとして、「列挙」「比較」「順序づけ」「関係づけ」「分類・整理」「推論」を置き、その思考ツールをふまえた話型を教室に掲示して、児童への定着を図った。具体的には、低学年では「私の考えは二つあります。一つ目は～、(列挙)」のように、高学年では「～さんの言いたいことは～(推論)」のように可視化し、日ごろの授業から意識できるようにした。

さらに、ワークシートに友達のよい考えを書く枠を作ったり、友達からの意見を書き込むことができる形式にしたりと、目的に合わせてワークシートを作った。児童は、意見が同じでも理由が違う友達の考え方に共感し、自分の意見に付け足すことができたり、友達からのアドバイスを受けて、自分の考えに生かしたり

するなど、思考を深めた。

②ペア・グループ活動とホワイトボードの活用

伝え合う活動の工夫として、ペアやグループ活動を意図的に授業の中で設定し、アイテムとしてホワイトボードを活用した。これによって、より能動的な学習になるよう授業展開を工夫した。自分の考えの根拠に自信が持てない児童も、グループ学習でホワイトボードを使うことで、自分の考えの根拠に妥当性や確かさを高め、意欲的に学習に参加することができた。また、グループの考えを一つに練り上げていく際に、叙述から根拠を探したり、叙述と叙述を関連させたりしながら自分の考えを説明したりすることがスムーズになり、話し合いが活発になった。



【ホワイトボード活用場面】

【相互授業参観のまとめのスライド】

学校研究体制 (意欲的に学びたい)	相互授業参観 第1回 6/27~7/1
	第2回 11/14~11/19
	第3回 1/16~1/20

参観の観点(ふりかえりシート)

参観の観点	現在の状況
参観の目的	戻りながら、わかる範囲で記入できない
参観の時間	よくできている(80~100%)
参観の場所	だいたいできている(70%)
参観の人数	できていない(70%)以下

参観の観点がしぼってあることがわかりやすい
学習の土台づくりをチェックし合うのはいいと思う
短時間でも他の先生の授業の空気に触れることで自分の授業を見直す、いい機会となった
おすめの時間以外でも参観してもいいということで、空き時間に気軽に何クラスも授業を観にいったのでよかった
他学年のいろいろな取組を知ることができてよかった
課題提示や発問、ほめ方などで参考になった

③授業づくりに向けたOJTの計画的実施

学期に1回、相互授業参観週間を実施し、お互いの授業を参観し合い、授業展開の工夫を交流し、指導力の向上を図った。また、月に1回、最新の国語科の授業実践DVDの視聴や学力向上に向けた授業づくりなどをテーマに定期的なOJTを行った。

(3)その他、日常的な「読む」「書く」活動の取組

日常的な取り組みとして、①詩の暗唱の取組(毎月、学年ごとに「今月の詩」を掲げ、暗唱に取り組んだ。朝学習の時間や朝の会、帰りの会を利用して日常的に暗唱の活動を取り入れたもの)②全校朝の会での詩の暗唱の発表(「今月の詩」の暗唱の発表に機会として、毎月はじめの全校朝の会で、学年の発表の場を設けたもの)③校長先生暗唱テストの

取組(個人の暗唱を聞く機会として、校長室で校長が「今月の詩」の暗唱ができるかどうか挑戦させるもの)④週末課題「条件付き作文」の取組(全校で毎週金曜日の家庭学習では、目的に合った文や条件付きの課題作文に取り組ませるもの)⑤自学ノートの取組(授業の予習や復習を家庭学習で自学するもの)⑥グッドノートの掲示(児童の思考力の育成とその思考の足跡を可視化するため、国語科に限定して他の児童のお手本となるノートを「グッドノート」と呼んでコピーに教師のコメントを入れて掲示するもの。月に1回程度更新していき、年間を通して掲示コーナーを常設)などを実施した。

(4)児童の学力向上に向けた取組

①補充授業(国語・算数)の実施(年間を通し週1校時;5年のみ)

学習指導要領で求められる学力(活用力等)の向上と学力向上への意欲を高めること、共同の学習意識を高めることをねらいに、週1時間増時の平日補充授業を実施した。教材を全国学力・学習状況調査去問題(B問題)を教材に一斉とグループ学習を織り交ぜて、意欲が継続し、高まるように補充授業を行った。

さらに、習熟度別・個別学習形態で、総復習を行った。補充教材として、復習プリント(国語・算数の前学年から現在の学年までのおさらいプリント)に取り組む、採点も児童自身にさせ、直しをきちんとさせて、次々に進ませる学習形態をとった。各自のペースで自主的に進められる取り組みとした。

②計算スキルアップタイムの実施(3学期)

四則計算(繰り上がり、繰り下がり、九九)に熟達し、集中力を養うとともに、学習姿勢を向上させ、伸びる(タイムが縮む・努力が向上につながる)喜びを味わわせ、学習意欲を高めることをねらいに、全校一斉の朝学習に取り組んだ。単純計算(4種=四則)100題のスピードを測定し、5分間で解けた題数と時間を記録する。今年度は1週間、3学期に実施した。



【補充授業(一斉)の様子】

2. 成果と課題

教師の指導力・授業力の育成では、年間計画に基づく校内研究計画によって、確実に一人一人の教師の指導力・授業力が向上した。思考を深める授業づくりの工夫では、グループ学習・ペア学習の工夫によって主体的な学習活動も意図的に組み込まれ、「ホワイトボード」を活用した効果的なグループ学習やグループ発表の授業展開によって児童の日々の授業の学習姿勢の向上と思考力と学習意欲の向上が見られた。単元ごとの言語活動による成果物に授業でゲットした力がしっかり現れるようになった。

学力の向上では、評価問題(本県主催12月実施の学力調査問題)で、特に理由や根拠の記述が求められる問題5問の平均正答率が、国語科では前年度から41.5ポイント向上し、算数科では19.1ポイント向上した。また、本市の平均通過率(同5問の平均)を国語算数どちらも大きく上回る結果であり大きな成果が得られた。

今後は、思考を促し、考えを深める授業づくりによって、さらに児童の思考力・活用力を高めていきたい。そのためには、授業の課題を掘り下げることができるような問いの研究と、そこからさらに深く学んでいけるような自己学習力をそなえた児童を育成できるようにしたい。